

# 市長室



今月から市長からのメッセージを市民のみなさんにお伝えする「広報いんざい 市長室」が始まります。

子どものころ、毎年桜の花の咲く時に行われる「印西大師」をとっても楽しみにしていました。接待の手伝いをする小遣いを貰ったこともありましたが、参加した人たちが話す結願寺のこと、各地の賑わいのこと、珍しい話などにいつも夢を見、心弾ませていました。畏敬の念を抱きつつ、そのような話を聞きながら、いつか自分も直接この目で見てみたいと思い続けていました。そして、市長に就任して広域行政や市町村合併を考えていた時、ふるさとの再発見の思いも兼ねて、ふと印西大師八十八カ所を巡ってみようと思いたち、一日休みの取れる元旦に決行しました。

札所をお参りしていると地元の人に「ご信心ですね」と声をかけられ、ご利益があるからお供えの餅を頂いたり、通称「花の寺」と呼ばれている印旛村瀬戸徳性院では、沢山のカメラマンが夕暮れの印旛沼をカメラに収められる光景を見ながら春の花が咲くころの美しい風景を想像したり、各寺の境内にある石仏建立の由来を思い巡らせながら合掌したりなどしました。また、札所ごとに「身内の悪しき誹謗打ち捨て皆吉祥を望み祈れよ」などが特に印象に残るご詠歌でした。

八十八の札所は境内の手入れ行き届きとてもきれいで、道の草刈など整備され、地域社会がしっかりとしている証拠を見たいと思います。合併をし、新市が一体化するには、この地区単位の結束と絆を大切にすることがなによりも大事であると考え、各市内村における道路整備、排水整備、急傾斜地対策、耕作放棄地対策や里山や景観の保全などの課題は、地域の方のみなさんのご意見・ご希望を集約しながら対応していかなければならないと強く感じました。「虚しく生きて実ちて帰る」(空海)、そんな有意義な印西大師八十八カ所札所巡りでした。

「だんごフォーラム」は、市内に活動拠点を持つNPOなどの市民活動団体やボランティア団体、活動内容の展示やPRを行い、互いに情報交換や交流を深めるために、印西市市民活動支援センター運営協議会が主催するイベントです。「市民活動の始めの一歩を踏み出したい」「市民活動に興味がある」という人は、個人参加も大歓迎です。ぜひご参加ください。

日時：2月14日(日)・正午～午後4時  
会場：イオンホール(イオンモール千葉ニュータウン)。  
参加費：無料。  
※展示およびPRを希望される人は、左記まで。  
印西市市民活動支援センター(☎494500)。



▲表彰に喜びの表情の宇山さん



▲入選した鈴木萌乃さん

◆第19回国際年齢別トランポリン大会  
平成21年11月18日～21日の間、ロシアのサンクトペテルブルグで開催された「第19回国際年齢別トランポリン大会」で、日本代表として出場した宇山芽紅さん(西の原中2年)が、シンクローの部で金メダル、個人の部で第5位という好成績を残しました。



▲システムの画面。このシステムにより、ふれあいバスの利便性がアップ

タヌキの「ボン太」とキツネの「コン助」でおなじみのふれあいバスは現在、4台が市内4ルートで運行。たくさんのお客様に利用されており、昨年度の利用者は、年間13万人を超えました。今後も当システムの充実を含め、ふれあいバスの利便性向上を目指していきます。

企画画策課交通政策室(☎内線473)。

市民の足として親しまれているふれあいバスの利便性向上のために「ふれあいバス時刻・乗継検索システム」が、2月1日(月)から市ホームページ上で利用できます。このシステムは、目的地までの最適な乗車時刻や到着時間、乗継場所、所要時間などを検索できるシステムです。市と東京電機大学との連携の一環として、情報環境学部のみなさんに、構想段階からシステム製作まで、全面的にご協力いただきました。



▲山崎市長(最左)とシステム作成に尽力してくれた東京電機大学情報環境学部のみなさん

「ご利用ください」  
ふれあいバス時刻・乗継検索システム

国際協力機構(JICA)  
シニア海外ボランティア、青年海外協力隊

## 吉原久雄氏(小林浅間) 伊藤はるか氏(高花) が海外へ



▲伊藤はるか氏 ▲吉原久雄氏

独立行政法人国際協力機構(JICA)のボランティアとして、吉原久雄氏(シニア海外ボランティア)と伊藤はるか氏(青年海外協力隊)が、出発を控えた平成21年12月17日に来庁されました。吉原氏は「印西市国際交流協会」の副会長であり、過去にも農業指導で、海外ボランティアを経験されているベテランです。今回の派遣でも、トンガ王国のスクアロファへ赴き、農業政策アドバイザーとして、国内用の野菜や果物の生産・品種導入などに携わります。吉原氏は「日本とトンガの親善を基に、同国の農業発展に寄与したい」と今回の活動について、抱負を語りました。

青年海外協力隊として、エジプトのカイロへ赴く伊藤氏は、青少年活動に従事。ストリートチルドレン支援NGO団体である「HOPE Village」に参加します。学生時代に訪れた発展途上国の現状を目の当たりにし、国際協力への道を志したという伊藤さん。「子どもたちが少しでも将来に『希望』を持てるよう、そのお手伝いをしたい」と語りました。両氏は2年間、それぞれの受け入れ国で活動する予定です。



### 市内小・中学校および児童・生徒が表彰

◆千葉県学校歯科保健優良校の表彰  
去る平成21年11月13日に千葉県青葉の森芸術文化ホールで行われ、印西市では、原小学校と原山中学校が表彰を受けました。



▲表彰状を手にする原小学校の並木校長(左)と原山中の市川校長

この表彰を機にさらに充実した歯科保健をめざし、より多くの児童生徒が8020を達成できることを願っています。

◆第59回「社会を明るくする運動」千葉県作文コンテスト  
県内9,316名の応募作品の中から、鈴木萌乃さん(内野小6年)の作文「インターネットの裏の世界」が千葉県更生保護助成協会理事長賞を受賞しました。

「社会を明るくする運動」は、国民が力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうという全国的な運動です。作文コンテストは、市内の小・中学生に日常生活の中で体験したことを元に、非行や犯罪について感じたりしたことを作文にして発表します。鈴木さんは、自身の作文の中で「インターネット上で起こる犯罪やいじめの恐ろしさ」をそれらに立ち向かうには強い心を持つこと」を訴えかけました。